

博士論文要旨

学籍番号	1216001	氏名	加藤 由香里
論文題目	地域包括ケアシステムにおける退院支援のあり方に関する研究		
<p>目的 患者・家族の生活を総合的にアセスメントした退院支援方法の考案を通して、地域包括ケアシステムにおける退院支援のあり方を検討する。</p> <p>方法 研究1 現状調査：先駆的な医療機関から退院支援活動の特徴を、地域資源担当者（居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、外来）から退院支援の現状を聴き取る。患者・家族から入院中と退院後の状況と思いを聴き取る。研修病院の支援推進看護師、退院調整看護師等で病院の退院支援課題を検討する。研究2 実践的取組みと評価：研修病院地域包括ケア病棟のチーム検討会で、病棟の退院支援課題と方策案を検討し事例を支援し、患者・家族から思い、看護職から支援内容を聴き取る。実践を省察し退院支援方法を検討する。研究3 病院看護職と地域資源担当者による検討：退院支援における協働のあり方を検討する。本研究は岐阜県立看護大学大学院看護学研究科論文倫理審査部会の承認を得て実施した（承認年月：2017年3月，29-A002D-1）。</p> <p>結果</p> <p>研究1：2医療機関の退院調整看護師は、【退院調整看護師・MSWが患者の情報を多角的に知る】、【地域資源担当者や住民に退院支援を伝える】等の特徴があった。地域資源担当者4人は、【その人の生活のこだわりを知る】、【サービス利用は患者の決定を待つ】等の現状があった。3事例の患者・家族は、『患者自身の体調・状態・ケア方法を理解する』、『活動性を高める』、『患者・家族自身が生活を具体的にイメージする』等の退院支援を求めている。これらを基に病院の退院支援の8の課題が検討された。</p> <p>研究2：病棟の退院支援の5の課題と方策案を検討し、1事例に実践した。支援では、【患者の気配りの把握】、【支援推進看護師と受け持ち看護師による支援の検討】、【入院前の生活を目指した排泄方法・移動方法の支援】、【誤嚥性肺炎再発予防】等が実践され、患者・家族の聴き取りから、『患者自身の体調・状態・ケア方法を理解する』、『要望に合ったサービスを選択する』等が求められた。方策案実践の省察を基盤に退院支援指針と方法が検討された。本実践的取組みにより、【転床時から入院前の生活を知り生活動作の向上と再発予防に取組めた】、【支援推進看護師と受け持ち看護師が共に考え実践する協働方法が実践できた】、【患者・家族の状況と思いを知り、実践の省察から現状を捉え、改善案を実践し退院支援を検討できた】等の成果が確認された。</p> <p>研究3：【病院の看護職と地域資源が共に患者を尊重し生活に捉えた退院支援を進めていく】、【患者、家族、地域資源担当者、病院看護職が早期からサービスを含めた患者・家族の目指す退院後の生活に合意する】、【退院調整看護師から地域資源担当者へ患者・家族の状況と思いを伝え積極的にアプローチする】等の協働が重要であると確認された。</p> <p>考察 地域包括ケアシステムにおける退院支援は、患者・家族の生き方を含む生活、患者・家族の困りごと、患者と家族の関係性、再発・悪化リスクと健康増進、実践可能な療養・介護方法の5つを、時間軸を辿って総合的にアセスメントし支援することである。アセスメントと支援の実践には、病院看護職と患者・家族、退院支援推進看護師と受け持ち看護師、病院看護職と地域資源担当者、関係者一同が早期から双方向的及び多層的に協働することが重要であり退院調整看護師からの働きかけが必要である。患者・家族の生活に焦点を置く人材、現状課題への自身の役割を見出す人材、双方向的・多層的に協働する人材が実践の中で育つには、支援に関わる人々が所属や職種を超えて患者・家族からの評価の確認と現状の実践の省察から課題と改善策の検討、実践・省察のプロセスを重ねることが有効であったと考える。</p>			

(別記様式3)

番 号 :
平成 31 年 2 月 19 日

平成 3 0 年度博士論文審査結果報告書

主 査	黒江	ゆり子
副 査	奥村	美奈子
副 査	服部	律子

平成 3 0 年度博士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、下記のとおりです。

記

学籍番号 : 1216001

氏 名 : 加藤由香里

審査結果 : ○ 1. 合格 2. 不合格 3. 保留

[審査結果要旨]

(1,000 字以内)

論文題目「地域包括ケアシステムにおける退院支援のあり方に関する研究」は、患者・家族の生活を総合的にアセスメントした退院支援方法の考案を通して、地域包括ケアシステムにおける退院支援のあり方を検討することを目的とする研究である。第 1 段階として、先駆的な医療機関から退院支援活動の特徴、また患者・家族から入院中と退院後の状況と想いを聴き取り、研修病院での退院支援の課題を現地看護職とともに検討した。その結果、退院調整看護師や地域資源担当者から退院支援の課題が明確になった。第 2 段階では、病棟の退院支援の課題と方策案を検討し 1 事例に実践した。実践事例では「患者の気がかりの把握」「支援推進看護師と受け持ち看護師による支援の検討」等が実践され、患者・家族の聴き取りからは『患者自身の体調・状態・ケア方法を理解する』『要望に合ったサービスを選択する』などが求められた。また第 3 段階では、取り組みの評価として患者を尊重し生活を捉えた退院支援を進めていくため退院調整看護師と地域資源担当者などの協働が重要であることが確認された。さらに退院支援に関わる人材育成のためには、所属や職種を超えて患者・家族からの評価の確認と現状の実践の省察から課題と改善策の検討を重ねることが有効であることが示唆された。

以上の過程は的確にデータ化され論述されており、地域包括ケアシステムにおける退院支援のあり方を検討する研究として高く評価できる。審査委員会では、これらの取り組みは本研究科の倫理基準に基づいて実施されており、論旨に一貫性があり、博士論文審査基準に適合するものであることを確認した。

当該学生は審査委員会に 4 回出席し、主査・副査からの質問に答え、かつ直接指導を受け、最終試験に合格した。

以上のことから、本論文は博士論文として価値あるものと認める。